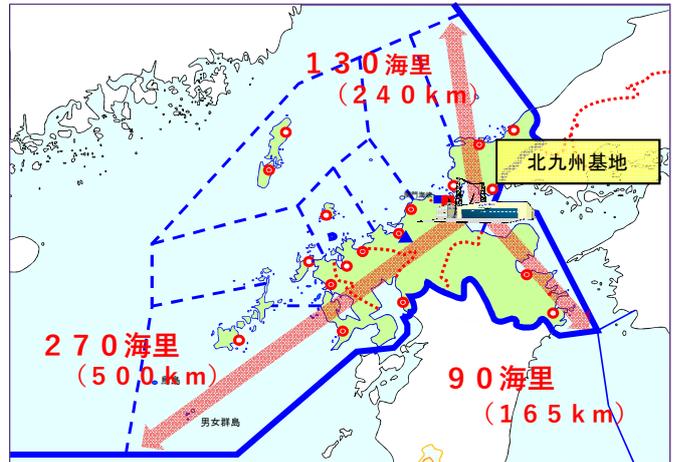


北九州航空基地～国境管区の海を守る～

北九州航空基地は、海上交通の要衝である関門海峡をはじめ、日本海と東シナ海を結ぶ対馬海峡、太平洋へと繋がる豊後水道を擁し、外国船舶の往来や漁船の操業も多く、さらに国境管区である第七管区海上保安本部所属の航空基地として九州北部及び山口県西方の海域を管轄している。



令和2年4月、夜間、遠距離であっても九州北部周辺海域の迅速かつ広範囲な捜索救助と警戒監視が可能な基地として誕生！



ファルコン2000 中型ジェット機が増強！

令和3年7月8日、第七管区海上保安本部 北九州航空基地に2機目の中型ジェット飛行機(ファルコン2000、愛称「わかたか2号」)が就役。赤外線監視装置、高性能監視レーダー等を備え、夜間、遠距離であっても迅速かつ広範囲な海域の捜索・監視が可能。



愛称	わかたか
機数	2機
座席数	18席
全長	20.23m
全巾	21.38m
全高	7.18m
速度	494kt



愛称	中型飛行機ビーチ350 うみかもめ	中型回転航空機アグスタ139 はまちどり	小型飛行機セスナ172 あまつばめ
機数	2機	2機	5機
全長	14.23m	16.65m	8.28m
全巾	17.66m	—	10.97m
全高	4.37m	4.98m	2.72m
速度	263kt	167kt	163kt

【北九州航空基地沿革】

●昭和29年3月(1954年)

九州全域を管轄する七管区の航空基地として『大村航空基地』開設

●昭和37年4月(1962年)

第十管本部発足に伴い、『鹿児島航空基地』として移転

●昭和49年12月(1974年)

福岡空港に『福岡航空基地』発足 ビーチクラフト1機配属

●平成14年10月(2002年)

高度な救難体制確立のため全国で初となる『機動救難士(4名)』発足

●令和2年2月(2020年)

ファルコン2000(わかたか)1機 就役

●令和2年4月(2020年)

『北九州航空基地』に移転 航空機10機

ファルコン20001機、ビーチ3502機、アグスタ1392機、セスナ1725機

●令和3年7月(2021年)

ファルコン2000(わかたか2号)1機 就役 航空機11機



【組織】

昭和49年12月に福岡航空基地として発足。当初、職員数は10名ほどであったが、平成14年からは機動救難士が配置され、平成22年には業務統括管理官が、さらに平成27年には航空情報官が配置、現在、北九州航空基地では管理課が新たに設置され、約100名以上の職員が勤務している。



福岡航空基地開設時の格納庫と併設の庁舎



北九州航空基地

～航空機の機動力を生かし海を守る～

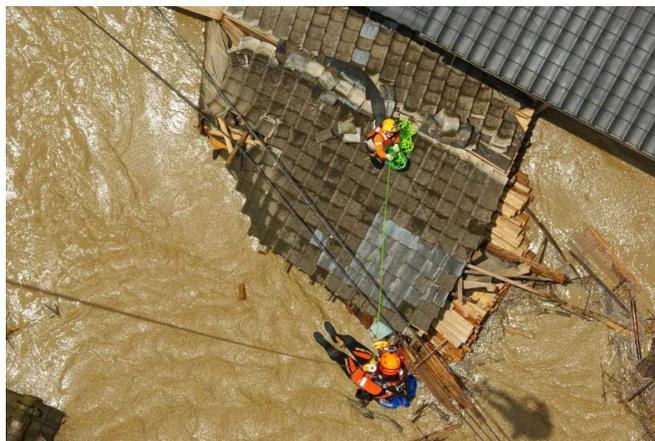
【巡視・警戒】

- 密航・密輸警戒
- サミット、原子力艦船入港時におけるテロ警戒
- 治安確保(昼夜におけるしよう戒)
- 密漁取り締まり
- 領海警備

【海難救助・災害対応】

◆洋上救急

令和3年4月27日、インドネシアから戸畑向け航行中のパナマ船籍貨物船「TTM HOPE」(総トン数64,642トン)から、「乗組員1名が頭の痛みを訴え、30分前に倒れた。意識がない」と船舶電話にて救助要請。洋上救急発動となり、長崎空港にて長崎医療センター医師1名同乗のうえ、同乗組員を吊上げ救助。長崎空港において長崎県央消防局救急隊に引き継いだ。



◆豪雨による災害対応(令和2年7月)

令和2年7月4日、大きな被害が発生している熊本県に北九州航空基地から航空機及び機動救難士が出動し、捜索・救助活動を実施。特に被害の大きかった熊本県人吉市で家屋が濁流に囲まれ、避難できずにいた孤立者3名を発見、機動救難士が屋根に降下し3名とも無事に吊り上げ救助した。

◆機動救難士実績※令和3年7月28日現在

出動件数 累計 1,568件

救助人数 累計 344名

【航空機の整備作業】



【整備科職員による機体整備】

エンジン交換など複雑な整備作業を効率的に実施し、整備期間の短縮を実現するため、交代制勤務によるシフト整備を実施。

【飛行機の操縦要員を養成する北九州航空研修センターが開所】

飛行機の操縦要員増員を目的に「海上保安学校宮城分校北九州航空研修センター」が令和2年4月に開所した。海上保安庁では初めて“自前”の飛行機操縦要員養成施設で養成が開始された。